

令和5年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表 I

重点目標	【1】学力の向上を目指した授業改善と主体的に学ぶ生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況・評価結果	成果や課題、今後の方針 等	評価
<p><行動計画> (1) 教職員の授業改善活動による「わかる授業」の実践</p> <p><目標値> ・生徒・保護者・教職員の授業理解に対する自己評価80% ・教職員研修への満足度85% ・校内授業研究年間1回 ・授業相互見学の実施</p>	<p>・授業理解に対する自己評価 生徒【全体88%、1年91%、2年88% 3年86%】 保護者【全体68%、1年68%、2年70%、3年67%】 教職員【全体98%】</p> <p>生徒 89.6% (R2年)、87.3% (R3年)、88% (R4年) 保護者74.2% (R2年)、64.3% (R3年)、64% (R4年) 教職員 61% (R3年)、83% (R4年)</p> <p>・教職員研修への満足度 97% (1月研修アンケ) ・校内授業研究年間 現在1回 ・授業相互見学(模擬授業)の実施 現在3回</p>	<p>・「授業への理解度」の問いに対して、昨年度より評価が高い傾向を示している。また、「学力が身につけている」に対して生徒・教職員の回答は昨年度より向上しており、一定の評価ができる。</p> <p>・タブレット端末を用いた授業づくりを推進するため、指導主事やICT支援員を研修会へ招き、授業力向上に努めた。</p> <p>・3学期からはタブレット端末の持ち帰り回数を増やし、毎週水・金曜日(週2回)に持ち帰りを行い、学習支援ソフト「e-ライブラリ」を活用して、家庭学習の充実に努めた。</p> <p>・今年度の取り組み内容をしっかりと見直した上で、次年度へ引き継いでいく。</p>	B
<p><行動計画> (2) 学校のICT化(一人一台端末の有効的な活用)と学習スタイルの共有</p> <p><目標値> ・タブレット活用の促進 ・「書く」活動の充実にに対する自己評価90% ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着と「学び合い」の学習スタイルの充実にに対する自己評価90%</p>	<p>・タブレット端末持ち帰り毎週金曜日実施(3学期水・金)</p> <p>・「書く」活動の充実にに対する教職員評価 91% (1月研修アンケ)</p> <p>・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着に対する教職員評価 97% (1月研修アンケ)</p> <p>・「学び合い」の学習スタイルの充実にに対する教職員評価 97% (1月研修アンケ)</p>	<p>・タブレット端末を用いた授業づくりを推進するため、指導主事やICT支援員を研修会へ招き、授業力向上に努めた。</p> <p>・3学期からは、タブレット端末の持ち帰り回数を増やし、毎週水・金曜日(週2回)に持ち帰りを行い、学習支援ソフト「e-ライブラリ」を活用して、家庭学習の充実に努めた。</p> <p>・すべての教科において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を行うことで、学びの土台となる授業スタイルが定着した。また、感染防止対策を講じたうえで、学び合いの学習も徐々に取り入れていった。</p>	A
<p><行動計画> (3) 読書習慣の定着</p> <p><目標値> ・短学活での読書活動の充実(生徒アンケート評価90%) ・生徒一人当たりの年間読書冊数の目標値20冊 ・朝の図書館デーの継続</p>	<p>・朝の読書活動において、毎日1つの学級が図書館で実施 ・生徒の年間読書冊数(12月末現在) 9,599冊 5,678冊(R2年)、6,707冊(R3年)、7,989冊(R4年) ・一人当たり年間冊数(12月末現在) 15.66冊 10.3冊(R2年)、11.16冊(R3年)、13.68冊(R4年) ・国語科、特別支援学級等で図書館を利用した学習の実施 ・図書館ADの訪問による学習支援回数もおよそ月1回開催 ・朝読、朝学の取り組み状況生徒自己評価 全体93%、1年96%、2年89% 3年93% 91.1% (R2年)、87.3% (R3年)、93% (R4年)</p>	<p>・本年度は、3学年とも1年間を通して朝の図書館デーの取組を継続して行い、読書に親しむ習慣の定着に取り組んだ。</p> <p>・図書館利用や図書貸出冊数は昨年よりさらに増加した。毎日1クラスが学校図書館でじっくり読書に親しむ機会を設けた成果であると思われる。</p> <p>・学校司書を中心として図書館環境は整備されているため、日常的に図書館に訪れる生徒は多くなりつつある。</p> <p>・今後も望ましい読書習慣を定着させていく。</p>	A
<p><行動計画> (4) 学習習慣の定着</p> <p><目標値> ・「家庭学習の手引き」と「自習学習ノート」を活用(家庭学習に対するアンケート達成率75%) ・短学活での学習活動の充実(生徒アンケート評価90%) ・タブレット持ち帰り 週1回以上</p>	<p>・全国学力調査より 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」 62% (本校) 58% (三重県) R4年 62% (本校) 62% (三重県) R3年 63.7% (本校) 65% (三重県)</p> <p>・アンケート「家庭で毎日勉強していますか」 生徒65% 保護者47%</p> <p><生徒> 72.3%(R2年)、65.8%(R3年)、63%(R4年) <保護者> 62.2%(R2年)、55.8%(R3年)、56%(R4年) ・タブレット端末持ち帰り毎週金曜日実施(3学期水・金)</p>	<p>・家庭での学習習慣の定着については、昨年度と同様の結果となった。ICTを利用するなど家庭での学習スタイルも新しく変わりつつあるが、学習の手引きや「スタDayノート」、授業での宿題の出し方に関して見直し、指導の強化を図っていく。</p> <p>・3学期からはタブレットの持ち帰り回数を増やし、毎週水・金曜日(週2回)に持ち帰りを行い、学習支援ソフト「e-ライブラリ」を活用して、家庭学習の充実に努めた。</p>	B

令和5年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅱ

重点目標	【2】豊かな心を持ち、命を大切に作る生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
<p><行動計画> (1)「人権」「道徳」「いのち」を大切に教育の推進</p> <p><目標値> ・人権教育推進委員会（週1回開催）、校区人権ネットワーク（年間3回開催）（人権教育への取組評価保護者・教職員80%） ・「いのちの日」の取組等による自他の命を大切に作る教育の推進「いのちの日」講演会 年間1回。（人権学習への取組評価生徒90%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会を週時程に入れ、定例化により週1回開催 ・各学年別に人権学習計画を検討し、委員会で系統性を検討 ・アンケート「人権学習や講演会に真剣に取り組んだか」 生徒 97% 保護者 69% 教職員 93% 生徒 92.4% (R2年)、93.5% (R3年)、95% (R4年) 保護者 90.0% (R2年)、66.4% (R3年)、66% (R4年) 教職員 90.9% (R3年)、89% (R4年) ・いのちの日講演会（1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権や道徳の年間計画に沿って、総合や道徳の時間に系統的な学習を行った。 ・人権教育9か年カリキュラムに基づき、各学年の人権学習を行った。校区人権フォーラムでは、人権サークル「ヒューマンライツ」のメンバーが参加し小学生と交流し学習を深めることができた。 ・学年別および全校人権フォーラム、いのちの日講演会などにおいて、生徒の前向きな学習姿勢が見られた。年間を見通して生徒の現状や課題に応じて計画的に取り組む必要がある。 ・校内の活動のほか、三中交流会、亀高フレンドリークラブ発表会、生徒会研修会などの行事、また多くの作文応募などで幅広く活躍する生徒の姿があった。またこれらの教育活動が保護者に伝わるよう情報発信していく。 	B
<p><行動計画> (2)生徒の居場所づくり・きずなづくりを意識した仲間づくり</p> <p><目標値> ・QUアンケート分析（年間2回）、仲間づくりアンケート（各学期）、人権アンケート（年間1回）、魅力ある学校づくりアンケート（各学期）（生徒理解に関するアンケート90%） ・教育相談活動の充実（いじめのない学級づくりへのアンケート評価90%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「学校生活が楽しい」生徒96% 96.3% (R2年)、93% (R3年)、94% (R4年) ・アンケート「先生に気軽に相談できる」生徒84% 81.8% (R2年)、83% (R3年)、82% (R4年) ・アンケート「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」生徒96% 94.1% (R2年)、93% (R3年)、94% (R4年) ・アンケート「先生は生徒のことをよく理解している」生徒92% 91.6% (R2年)、92% (R3年)、93% (R4年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が楽しい」「先生に気軽に相談できる」「先生はいじめのない学級づくりに努めている」は昨年度より上回っている。この数値に左右されることなく、いじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組む。 ・視点生徒を設定した学級づくりレポートの研修会を実施し、グループ別に分かれて、取り組みにおける困り感や具体的な手立てについて交流し学んだ。 	B
<p><行動計画> (3)生き方を学ぶ教育活動の推進</p> <p><目標値> ・進路、キャリア、多文化共生、防災、性等の生き方につながる教育活動の実践（ゲストティーチャー年5回以上）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年 ・交通安全教室（5月） ・薬物乱用防止教室（7月） ・スマホ教室（7月） ・環境学習講演会（11月） ○2年 ・マナー講座（9月） ・救急救命講座（10月） ・生命尊重講座（2月） ○3年 ・キャリア教育講演会（11月） ○全学年 ・人権落語講演会（6月）・歯科講演会（11月） ・いのちの日講演会（1月）・三送会（2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から講師を招いた講演会を各学年の実情に合わせて効果的に実施することができた。 ・今年は「いのちの日」の講演会として、鷲見三重子さんを招き、「いのち」の大切さや生き方を考えるきっかけとなった。今後も生徒の生き方、考え方を深められるような講演会や学習を継続していく。 ・本校には外国にルーツを持つ生徒が48名ほど在籍している。家庭的な背景や学力の定着の面で課題を抱える生徒も多い。自分のルーツに誇りを持って思いを発信でき、互いに文化や伝統の違いを尊重し合える学習をさらに推進していく必要がある。 	A
<p><行動計画> (4)いじめの早期発見、早期対応と継続的な指導の徹底</p> <p><目標値> ・いじめアンケート年間3回 ・教育相談活動の充実（年間3回+α） ・いじめへの取組に関するアンケート評価90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化 ・いじめアンケート3回実施、生活アンケート3回実施 ・教育相談期間4回実施、3学期2回予定 ・アンケート「学校生活が楽しい」生徒96% 96.3% (R2年)、93% (R3年)、94% (R4年) ・アンケート「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」生徒96% 94.1% (R2年)、93% (R3年)、94% (R4年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会に取り上げられた生徒情報は担当から各学年部に伝え、職員会議でも情報の共有化を図った。 ・定期的なアンケートや教育相談・見守り・連絡帳以外に、WEBでの相談窓口を設置した。 ・「学校生活が楽しい」「先生はいじめのない学級づくりに努めている」が前年度より上回っているものの、今後もいじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組む。 	B

令和5年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅲ

重点目標	【3】生徒の自治的活動の推進と地域、保護者との連携	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針等	評価
<p><行動計画> (1) 生徒が主体となる生徒会活動・学年評議会活動・学級活動・部活動の充実</p> <p><目標値> ・生徒、保護者、教職員「生徒会活動の充実」アンケート評価90% ・生徒会、学年評議会等が主体となる学校行事の企画・運営</p>	<p>・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化</p> <p>・アンケート「生徒会活動、委員会活動は充実している」生徒 95% 91.6% (R2年)、90% (R3年)、96% (R4年)</p> <p>・アンケート「校内美化に取り組んでいる」生徒 96% 94.9% (R2年)、85% (R3年)、95% (R4年)</p>	<p>・徐々に、全校で集まる機会を持つことができ、各活動を実施した。特に、学級づくりに大きく寄与している体育祭や文化祭といった学校行事も、コロナ以前の活動に近い内容で実施することができ、新たな工夫や改善を加えて実施することができた。来年度も生徒主体の活発な活動となるように、取り組みを継続していく。</p> <p>・清掃日を月曜日、簡易清掃日を火木曜日、清掃なし日を水金曜日をとして重点化し、チェックリストを作成して生徒と教職員が確実に取り組んだ。また、SSSの業務に廊下やトイレ清掃を盛り込んだ。</p> <p>・美化委員会を中心に「学校環境デー」を7月に実施した。グラウンドや駐輪場等の除草作業を行い、環境整備に取り組んだ。</p>	B
<p><行動計画> (2) 学校運営協議会を核とした学校・保護者・地域が一体となった教育活動を推進</p> <p><目標値> ・年間4回以上の学校運営協議会の開催と活動方針の協議及び実践 ・PTAとの連携による教育活動（家庭学習、スマホ・ゲーム視聴時間等の改善活動） ・学校関係者評価の実施と改善活動（公開） ・部活動の地域移行に向けた地域連携</p>	<p>・学校運営協議会4回実施</p> <p>①R5.4.28 経営方針・予算等の承認 ②R5.6.30 授業参観・意見交流 ③R5.11.11 学校の取組、生徒との懇談 ④R6.2.8 学校評価、次年度の経営方針</p>	<p>・一昨年度から「亀山中学校学校運営協議会」が発足した。学校の教育目標や解決すべき課題を学校、保護者、地域住民の三者で共有し、生徒が安心していきいきと活躍できる環境づくりのために、学校運営協議会を4回実施した。委員以外の教職員との懇談、生徒との懇談など、委員からの意見を元に協議会の内容を設定したことで、内容が形骸化されることのないものとなった。今後も連携をさらに推進していく。</p>	B
<p><行動計画> (3) 生徒の地域活動参加による社会貢献・ボランティア活動</p> <p><目標値> ・地域行事、ボランティア活動への積極的参加（生徒アンケート評価70%）</p>	<p>・アンケート「福祉活動、ボランティア活動に参加」生徒 59% 53.3% (R2年)、51% (R3年)、56% (R4年)</p> <p>・アンケート「積極的に地域行事に参加」生徒 71% 保護者 42% 生徒 67.7% (R2年)、64% (R3年)、68% (R4年) 保護者 52.0% (R2年)、39% (R3年)、39% (R4年)</p>	<p>・地域行事や福祉活動が再開され、生徒が参加する機会が戻りつつあった。その中で、赤い羽根募金街頭活動、福祉体験は貴重な機会となった。来年度も、地域行事やボランティア活動に積極的に参加できるよう、啓発し呼びかけを行いたい。</p> <p>・福祉活動、ボランティア活動、地域行事参加への意識は高く、地域行事や福祉活動が再開され参加できる機会が増えたため、全体的な数値は上がった。（三重県、全国との比較ではかなり高い）来年度も、状況に応じて各活動への参加を推進していく。</p>	B
<p><行動計画> (4) 学校による教育活動の情報発信</p> <p><目標値> ・学校だより発行数20回以上 ・ホームページの随時更新 ・保護者アンケート評価85%</p>	<p>・アンケート「学校の様子を知らせているか」生徒95% 保護者84% 生徒 90.3% (R2年)、93% (R3年)、94% (R4年) 保護者 88.9% (R2年)、86% (R3年)、86% (R4年)</p>	<p>・学校だよりは、12月末段階で発行部数38号を数え、日々の生徒の活動や様子の紹介や学力調査の結果の公表、時事を取り上げた投げかけ等、多岐にわたって校内外に発信をしている。</p> <p>・学校ホームページは、行事等の機会をとらえてタイムリーに学校の様子を発信した。</p> <p>・今年度も、ペーパーレス化の取組とタブレット端末の持ち帰りを連動させたが、大きな混乱もなく実施することができた。</p> <p>・地域や保護者に学校の様子を知ってもらうため、次年度においてもさらに積極的な更新を心がけ、情報発信に努めていく。</p>	A

令和5年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅳ

重点目標	【4】個々を大切にしたい誰一人取り残さない教育の推進	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針等	評価
<行動計画> (1)魅力ある学校づくりの推進 <目標値> ・魅力ある学校づくりアンケート（学校生活の楽しさ・みんなで活動する楽しさ90%）	・アンケート「学校生活が楽しい」生徒96% 96.3%（R2年）、93%（R3年）、94%（R4年）	・コロナ禍による生活環境の影響が大きく、SNSや生活面での生徒指導課題が依然として顕在化している。不登校気味の生徒や家庭への支援を行いつつ「魅力ある学校づくり」に一層取り組む必要がある。特別支援C0や生徒指導主事を中心に外部専門機関との連携をさらに密にし、情報の共有化と対応の検討をチーム学校で取り組む。	B
<行動計画> (2)生徒支援体制の充実 <目標値> ・生徒指導委員会、特別支援委員会の週1回開催による情報共有と支援体制の確立	・特別支援教育C0を核とした校内体制の確立 ・週時程内の学年会議を週1回定例化 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化	・一部の教職員や特定の教職員が抱え込むのではなく、校長も含め組織として情報を共有して対応を協議・決断し、組織的に対応することが必要であり、全ての教職員で共通理解を図るためにも、情報共有を重要視した。	B
<行動計画> (3)不登校・別室登校生徒へのきめ細やかな対応 <目標値> ・新規不登校数の削減（年間10人以下） ・オンライン授業等による不登校生徒の学習支援 ・別室登校生徒の学習支援 ・適応指導教室、子ども支援室等との連携（つながりを持たない家庭ゼロ）	・不登校支援担当（教育支援C0）を核とした校内体制の確立 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化	・一部の教職員や特定の教職員が抱え込むのではなく、校長も含め組織として情報を共有して対応を協議・決断し、組織的に対応することが必要であり、不登校支援担当（教育支援C0）を核として、状況に応じて効果的な対応を組織的に行うことにつなげた。 ・不登校担当（教育支援C0）や特支教育C0は、日ごろから関係機関等との連絡を行い、学校だけではなくサポート体制をつくり上げている。	B
<行動計画> (4)教育と福祉の連携、家庭支援のための小中連携の促進 <目標値> ・「つながるシート」を活用した子ども支援グループ、地域福祉課、社会福祉協議会等との連携（随時） ・子どもの育ちの連続性を意識した学校間連携（小中間・中高間）キャリアパスポートの活用 小中連絡会の開催（年2回）、児童生徒情報交換会（小中間1回、中高間1回）	・特別支援教育C0を核とした校内体制の確立 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化	・経済的に困難な家庭の生徒を早期の段階で福祉制度につなぐことができるよう、生徒・保護者の生活状況を福祉機関と共有し、就学支援や生活困窮者自立支援法に基づく学習支援の活用など、福祉関係機関と連携した支援を行った。	B

令和5年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表V

重点目標	【5】働き方改革と健康の保持増進・同僚性の向上	学校自己評価：A
〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分		
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等
<p><行動計画> (1)働きがいがあり、健康で明るい職場づくり</p> <p><目標値> ・教職員満足度調査75% ・健康診断の事後対応の徹底（要検査・治療等の確実な実施） ・ストレスチェックによる総合健康リスク及び量・コントロールの項目全国平均以下</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務における満足度 78% 56% (R2年)、15% (R3年)、54% (R4年) ・校内研修満足度 97% 75% (R3年)、100% (R4年) ・健康診断の事後対応の徹底 校長による面談・指導 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者は学校生活に対して肯定的な評価がみられるとともに、教職員の満足度はさらに大きく向上する結果となった。人員の確保・分掌の新設・事務業務の効率化・働き方改革の前進が要因となっていると考えている。 ・ 今後はさらに校長のリーダーシップを発揮し、同僚性を高め、学校改革にチャレンジしていく。
<p><行動計画> (2)働き方改革と総勤務時間の縮減</p> <p><目標値> ・部活動休養日の達成率100% ・定時退校日の達成率80%（定時退校日2日→4日） ・時間外勤務時間80時間以上の職員数0人 ・時間外勤務時間45時間以上の職員数のべ20人以下 ・時間外労働月平均時間30時間以下（三重県平均）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務状況（4月～12月）28.6 h 52h(R元年)、32h(R2年)、33 h (R3年)、27h (R4年) ・有給休暇取得状況（4月～12月）17.3日 13日(R元年)、13日(R2年)、8日(R3年)、18日 (R4年) ・定時退校日達成率 100%（R4までと同様定退週2回とすると） 51.4% (R3年)、93.2% (R4年) ・月80h以上の職員（12月末現在）0人 16人(R3年)、0人 (R4年) ・衛生推進委員会（12月末現在）18回 18回 (R2年) 23回 (R3年)、23回 (R4年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を推進して総勤務時間縮減することを目指し、人員の確保・分掌の新設・業務の整理・行事の見直し等をさらに推進した。 ・昨年より、総勤務時間については確実に減少している。定時退校日を毎週水曜日の4回に増やし、週の真ん中で体調を整える機会としている。 ・時間外勤務が80hを超える状況はなく、確実に改善が図られている。今後も個々の勤務状況の把握にとどまることなく、校務改善、働き方改革および見直しに取り組んでいく。
<p><行動計画> (3)教職員研修の充実と同僚性の向上</p> <p><目標値> ・校内研修への満足度90% ・OJTへの満足度80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修満足度 97% 100% (R4年) 75% (R3年) (1月研修アンケート) ・OJTへの満足度 100% 100% (R4年) (1月研修アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実を通して、学校の組織力を高めることをねらいとして、研修会やOJTを企画した。教職員が主体的に研修することで活発な研修となり、同僚性を高め、お互いに学びあう関係性づくり・絆づくりを、まず教職員が作る事ができた。

<学校関係者評価（亀山中学校学校運営協議会）>

第4回亀山中学校学校運営協議会において、学校自己評価について関係者評価を行った。

重点項目1の授業の理解度の項目において、3者受け止めの違いや教職員の伸び率の背景についての質問をいただいた。また、読書活動の充実について、貸出冊数だけにとらわれない取組について好評をいただいた。先生からの本の紹介機会を設けるなどさらに取組を進めるよう意見をいただいた。

重点項目2の人権学習の取組や居場所・きずなづくりの取組について、好評をいただいた。

重点項目3の有事の際の対応について、どのように学校の取組が行われているか質問があった。

重点項目4の不登校や心の悩みを抱かえている子どもが増加している現状を鑑み、子ども支援グループから講師を招くなどして運営協議会として研修する場を設ける必要もあるという意見があった。

重点項目5の取組についても、実効ある有意義な取組であるとのご意見をいただき、自己評価についてもA評価でよいのではないかという意見をいただいたため、自己評価をBからAに修正した。

最後に伊藤会長から、校長がリーダーシップを発揮し、チーム亀山中として今後も学校づくりや子どもたちの育成について、さらに取組を進めていくよう激励の言葉をいただいた。